

# human

No247

2012/11

医療を通じて人と人とのふれあいを広めるために  
ヒューマン(人)と名付けました。



「東北支援(気仙沼のさんま)」

|             |         |   |
|-------------|---------|---|
| 救急指定・労災指定病院 | さくら総合病院 | 愛知県丹羽郡大口町新宮1-129<br>(0587)95-6711(代)          |
| 老人保健施設      | さくら荘    | 愛知県丹羽郡大口町新宮1-96<br>(0587)95-6722              |
| 訪問看護ステーション  | あすかビレッジ | 愛知県丹羽郡大口町新宮1-10(太郎と花子内)<br>(0587)95-8623      |
| ヘルパーステーション  | あすかビレッジ | 愛知県丹羽郡大口町新宮1-10(太郎と花子内)<br>(0587)95-8026      |
| 居宅介護支援事業所   | あすかビレッジ | 愛知県丹羽郡大口町新宮1-10(太郎と花子内)<br>(0587)95-8027      |
| デイケアセンター    | 御 嶽     | 愛知県丹羽郡大口町新宮1-129(さくら総合病院2F)<br>(080)5294-5728 |
| 有料老人ホーム     | 太郎と花子   | 愛知県丹羽郡大口町新宮1-10<br>(0587)95-0111              |



<http://www.ijinkai.or.jp>

E-mail: [info@ijinkai.or.jp](mailto:info@ijinkai.or.jp)

## 「アスピリンの話」

太郎と花子施設長 小原 寛治

アスピリン(アセチルサルチル酸)は痛み止め(鎮痛剤)と熱さまし(解熱剤)として、1899年ドイツで市販され、その効果は数年の内に全世界に用いられる程に、画期的な薬剤であります。

日本人には胃障害が強く、諸外国の1/3量の使用量で解熱鎮痛剤としては不十分であり、その後のピリン剤が用いられていました。アメリカ人は歯痛・頭痛・関節痛・風邪熱等の時にスプーン一杯(1g以上)を日常的に頓用して用いています。私もまねをして用いたら、5日程胃をこわしました。

欧米人の死因の第一位を占めている心筋梗塞の死亡率がアスピリン常用者には5分の1以下であることは50年以前から知られており、最近でも同様の文献があります。動脈硬化とアスピリンの関係が判らないままに、アスピリンが血液中の血小板(血液を凝固させる血液細胞)の働きを低下させることが、実験的に証明されたのが30年程前でした。

動脈硬化は常に動いている血管の内面の壁が破れてポロポロになって硬化する状態であり、その理由にはコレステロール等が知

られていますが、その破れた内面に血小板が付着して硬く狭くすることが動脈硬化を進行させる大きな理由と考えられるようになりました。従って、血小板の働きを弱くすれば動脈硬化の進行を防止出来ると考えられ、心筋梗塞の予防にアスピリンの効果認められたのです。

アスピリンは血小板に付着すると、血小板の寿命(3〜7日間)の間、血小板の働きは低下いたします。従って十分なアスピリンを時々用いれば心臓の血管の動脈硬化は進まないですむわけです。

少量のアスピリンを用いる場合は毎日用いなければなりません、そのレベルは証明されていません。私はアスピリンの血小板機能低下を明らかに証明

した経験がありますので、これについて述べます。

血小板(正常値は1cc中20〜30万前後)が少なくなる病気は特発性血小板減少性紫斑病(ITP)といわれ、私の専門としていた血液疾患ではよく知られている病気です。血液が止血しないため全身の皮下出血(紫斑病)が見られます。5万以下ともなると尿・胃腸・鼻出血もあり、中年以後の人では脳出血があれば早期に死亡することもあります。現在は血小板輸血・免疫療法でよく管理されています。

明らかな血小板減少による全身紫斑病の人で神経精神障害を呈し、5日以上も運動麻痺・躁状態を続ける人がありました。解剖の結果、血栓性血小

板減少性紫斑病(TTP)という希な病気であり、病理学会で発表されたケースを経験しました。TTPは脳内の血管に血小板が凝集して脳の血流障害を起こし脳虚血症状と共にその為に全身の血小板が減少して紫斑病が出る希な病気であります。最近では検査法が進んで、TTPの発見は早くなりました。この病気を経験しておりましたので、30年程前に血小板の働きをアスピリンが低下させるという米国の血液専門誌の発表を見ました数か月後に神経内科の医師から紹介された血小板減少性紫斑病の患者さんに、アスピリン投与(マイクロカプセル)に入れたアスピリンを行いました。数日で意識明瞭になり5日程で血小板数は正常値になりました。拘束された四肢の皮下出

血部も十日後には目立たなくなりました。この60才の症例でのTTPアスピリン療法は、本邦の第一例として国の内外で発表しましたが、世界では3例目であることを知りました。アスピリンの血小板機能低下を発見したアメリカではなくて、スペイン・イタリヤ・日本での成功例は皮肉のように思われました。

この様に、私が血小板の働きを確実に落とすアスピリン効果を経験して、自分でもアスピリンを用いています。動脈硬化防止のためのアスピリン使用量は大量でなくてもよいといわれ、日本では一日80から100mgが常用されています。(風邪薬の量の1/10位)。その根拠は個人差を無視した経験的な量であり、疑問をもつ医

師も少なくありません。さて、話は変わりますが、年をとって、頭の回転が悪くなりますが、アルコールを飲むと良くなります。例えば同窓会で何十年ぶりに会った友達の姓はわかるが、名前が生まれませんが、酒が入ると名前を思い出して思いがけない思い出話が出来ます。これは少量のアルコール摂取をすれば酒を飲めない人に比べて寿命が長くなるのと、昨今の発表と一致してきます。又、私は年をとってから目の前に黒い点線が出没する飛蚊症を経験しています。これは数年前から酒を飲むと消えることを知っていました。即ち頭の中と眼の中の血行がよくなるためと思います。頭の血流がよくなら、アスピリンでもと考えました。アスピリンを100mg飲んで飛蚊症は変わ

りませんでした。1日3錠を飲んだら翌日から飛蚊症がなくなりました。大体2日くらいは良いようでした(血小板の寿命かな)ので私は3日毎に3錠(300mg、バイアスピリン)を用いています。確かに目ざわりな飛蚊症は減りました。薬は過量に使用すべきではありませんが、有効量を自分で決められたらそれにしました事はあります。手近なアスピリンが動脈硬化の予防になるならばいい話ですが、100mg1錠で胃腸を悪くする人もありますので、日本人の場合は医師と相談して用いる必要があります。

## 塞翁が馬

総合内科部長 加藤 千雄

この度10月1日から当院に赴任致しました、総合内科の加藤千雄と申します。宜しくお願ひ申し上げます。いきなり取り留めの無いタイトルを掲げました理由をご説明するため、まずは自己紹介をさせていただきます。

名古屋生まれの名古屋育ちで、父は開業医一代目。早くに父を亡くし、小生は二代目です。趣味はスポーツなんでも。幼少時は水泳に明け暮れ、スキーで膝の靭帯と肩の靭帯を切ってオペを勧められたものの、親からもらった体にメスを入れるなんて神様に申し開きができないと断り、自己流で治そうと始めた筋トレにはまりだし、スポーツドクター資格も取って現在に至っています。

40歳を過ぎてからも骨折を経験しただけでなく、ベンチプレスのし過ぎで横紋筋融解症から腎不全になりかけたり、自己流加圧トレーニングで失敗し深部静脈血栓症や腸閉塞になったりで、何度も入院を経験してきました。でもそのお蔭様で、患者様の気持ちを理解する機会に多く恵まれました。

入院はどれも自分の勤務する病院でしたから、いつでもカルテをそのまま閲覧できる状態であったにも拘わらず、毎日が本当に不安でした。医者や看護師さんがみんな忙しいのは分かっている、自分は何十人かの患者の一人で、自業自得で入院した僕なんかには構ってられないって分かっている、訪室して優しい言葉をかけてもらうことをつつい期待する、弱々しい患者に成り下がっていました。患者さんの気持ちで、我々のほんの少しの声掛けで、大きく救われることを、一杯勉強しました。

もちろん、そんな心の問題ばかりではありません。例えば、持続点滴は絶対に利き手にするもんじゃ無いってこと。これも入院して初めて気づきました。おちんちんを持ったり、お尻を拭く時、本当に大変でした(食事の読者の方、ごめんなさい)。これからも、きっとまた、何かやらかして入院するかもしれません。これを読んだ看護師さん、そんな時は絶対に左手に点滴して下さいね。

本稿のタイトル、"塞翁が馬"、私の大好きな言葉です。

病気や怪我はすごく辛かったけど、自分にとっては本当にいい勉強になりました。我々の毎日、一杯いろんなことがあります。楽しいことばかりじゃない、辛いことや悲しいことも一杯あります。でも、それらは全て、きっと神様が私たちに試練と勉強、体と心に対するトレーニングを与えて下さっているものと思うようにしています。きっと全ては自分のプラスに通じるものと信じて。

最初は重たいベンチプレスやスクワットも、時間をかけると必ず持ち上がるようになる。そう考えて、毎日頑張っています。

そんな訳で、根っからの首から下人間の、体育会系男子です。今後とも、宜しくお願ひ申し上げます。

## わたしの仕事



さくら総合福祉センター さくら荘 管理栄養士 加治屋 和

私は今年の4月、さくら荘に配属されました。私は食事やおやつ作りの時間が、さくら荘を利用される方々にとって、楽しい時間となる事を目標として仕事をしています。

食事は人生の楽しみの一つであり、生きることだと思います。栄養状態を評価する際に、食事摂取量は欠かせない指標の一つです。入所されている方々の食事量や残菜量を見て、一日にどれぐらいのエネルギーを摂取しているのか見当をつけます。食事量だけでなく、大きさ等、より個人に合った食事の提供を心掛けています。個人によって必要量は様々ですが、一口より二口、少しでも食事への意欲が湧くように努めていきます。

さくら荘での業務の一つにおやつ作りがあります。日常とは少し変わったおやつを楽しんでいただけることを意識して行っています。配属された当初は、人数分のおやつを作ることで精一杯でした。気がつけば半年が過ぎています。少しずつですが、利用者の方と一緒におやつを作る余裕ができました。食べていただくだけでなく、皆が楽しめる時間の提供も大切だと実感しています。

さくら荘の職員として、これからも自分にできることを考えて、日々を過ごしたいと思ひます。ご指導よろしくお願ひいたします。

## 第4回

## さくら総合病院 市民公開講座

『地域のために総合病院ができること』  
開催のお知らせ

開催日：11月24日(土)  
 時間：受付 13時～ 開始 14時  
 (所要時間2時間程度)  
 場所：大口町 町民会館  
 TEL:0587-95-9033  
 参加費：無料  
 事前申し込み：不要



講演内容：①開会の挨拶 ..... 院長 小林 勝正  
 ②画像でわかるあなたの病気 ..... 放射線科 水野 晶公  
 ③いつまでも安全に食べるために ~自宅でもできる嚥下リハビリテーション~  
 ..... リハビリテーションセンター 山田 友紀  
 ④動悸って...息切れって... ..... 循環器内科 加藤 千雄  
 ⑤閉会の挨拶 ..... 外科 小林 豊

その他：飲み物を無料配布致します!血圧・血糖測定コーナー、福祉用品の展示や、会場屋外で救急車の展示を行います。めったに見られない救急車の中もご覧いただけます。担当職員がご質問にもお答えしますので、是非、ご参加ください。

## お帰りのバスについて

●大口町コミュニティバス  
 南部ルート 布袋駅方面16時21分発  
 北部ルート 柏森駅方面16時23分発  
 基幹ルート 柏森駅方面16時50分発

## ●さくら総合病院巡回バス

講演終了後、楽田方面へ参ります。駅までの道のりでしたら、途中下車も可能です。

主催：さくら総合病院  
 後援：尾北医師会 大口町 扶桑町  
 お問い合わせ：さくら総合病院 市民公開講座 事務局  
 0587-95-6711(代表)  
 HP URL:<http://www.ijinkai.or.jp>  
 Mail:[koukaikouza@ijinkai.or.jp](mailto:koukaikouza@ijinkai.or.jp)



